おんがく広場 第145号
令和3年(2021) 11月24日(水)
Facebook,Twitterにも掲載／リンクフリー／御自由にコピーして下さい 令和2年(2020)4月10日創刊
発行・クッキー会 発行責任者・加藤良一
連絡先 rkato@max.hi-ho.ne.jp

ジュニア合唱団のクラスター検証報告

新潟市ジュニア合唱団 2021年8月発生

りゅーとぴあ新潟市民芸術文化会館は、2021年8月大規模児童合唱団で発生した新型コロナウイルス集団感染について『**新潟市ジュニア合唱団内における新型コロナウイルス集団感染検証報告書**』(10/1付)として公表しました。このクラスターは陽性者が団関係者のみならず施設関係者など計45人に及ぶものでした。

JCreport_20211001_All.pdf (ryutopia.or.jp)

報告書は、団員の陽性が最初に確認された8/7以降の感染発生状況と合唱団・関係者の行動を時系列にまとめ、感染予防策の実態も記載されています。

クラスター発生の概要

8/7(土) 講師:抗原検査実施⇨陰性、新潟に向かう。移動中、8/5(木)都内で講師による声楽指導を受けた者が陽性との連絡を受ける。到着後、会館職員と協議したが、下記3点からリスクは大きくないと判断、当日午後のレッスンを①41名(50分間)、②49名(60分間)、③43名(2時間) の3グループに分けて実施。

1.講師と声楽受講者が距離を保っていた、2.講師がマスクを着用していた、3.受講時間は50分と長くなかった

8/8(日・祝) 講師:抗原検査実施⇨陰性、会館に向かう。レッスン:①44名(50分間)、②43名(90分間)の2グループに分けて実施。講師帰京後、8/5(木)の声楽指導において「講師は濃厚接触者にあたらない」との都内保健所の判断を受け取る。その夜、講師:発熱・咳・鼻づまり発症。
(8/9は振替休日で医療機関にかかれず)

8/10(火) 講師:抗原検査実施⇨陰性。受診、PCR検査を受ける。夜、会館職員の1名発熱、喉の痛み訴える。

8/11(水) 発熱していた会館職員の1名の陽性が判明。合唱団員1名の陽性判明。講師:陽性判明。保健所は、8/7-8のレッスン参加者113名と職員1名を濃厚接触者に認定、PCR検査実施を決定。

8/12(木) PCR検査キットを対象者(1)に配布。
【8/21(土)に予定していた定期演奏会の中止を発表】

8/13(金) 新潟市は会見で集団感染を発表。(1)の結果判明⇨対処。PCR検査キットを対象者(2)に配布。

8/14(土) 新潟市は会見で集団感染を発表。(2)の結果判明⇨対処。8/12以降自宅待機中の職員1名の陽性が判明。

8/16(月) 会館職員7名のPCR検査実施⇨全員陰性。

8/22(日) 合唱団員・保護者へ、第7報目のメールで経過観察終了の案内を流した。

◦◦◦◦◦◦◦**計45名の感染発生状況**◦◦◦◦◦◦

・8/7-8レッスン参加団員	計113名	⇨うち陽性者		25名
・濃厚接触者等関係者	—	⇨	〃	17名
・講師・ピアニスト	2名	⇨	〃	1名
・担当職員	2名	⇨	〃	2名

『新潟市文化芸術活動の実施に関する新型コロナウイルス感染拡大防止ガイドライン』

ガイドラインは、2020年7月1日初版、2021年11月1日改訂8版が出されています。作成にあたり、新潟大学大学院医歯学総合研究科・齋藤玲子教授が協力しています。

guideline_20211101.pdf (niigata.lg.jp)

初版のガイドラインは、国の『新型コロナウイルス感染症対策の基本的対処方針』(2020/3/28、5/14改訂)、新潟県『新型コロナウイルスのまん延防止に向けた協力のお願い』(同5/15)、新潟市『新しい生活様式に基づく新潟市文化施設の利用に関するガイドライン』(同5/7)、全日本合唱連盟『合唱活動における新型コロナウイルス感染拡大防止のガイドライン』(同6/29)はじめ、全国公立文化施設協会、クラシック音楽公演運営推進協議会、日本バレエ協会、ライブハウスコミッション他のガイドラインを参考にしていました。しかし、改訂8版では新潟市のガイドラインは削除されました。

ガイドラインは、その位置づけ、基本的考え方、感染拡大防止策、具体策(文化施設、文化芸術団体の練習・稽古、各種教室・スタジオ)から構成されており、改訂8版ではPCR検査や抗原簡易キットにも言及しています。但し、「このガイドラインによって、可能な限り感染リスクを下げることはできますが、感染防止の取り組みには、現時点で『絶対』『間違いない』ということは誰も言えません。」と、ガイドラインはあくまで参考であり、個別の活動に応じて活用することを推奨しています。

また、11月からの当面の対策として、『収容率及び人数制限の緩和を適用する場合の条件 チェックリスト』を公表し、緩和条件などを具体的に明示しています。

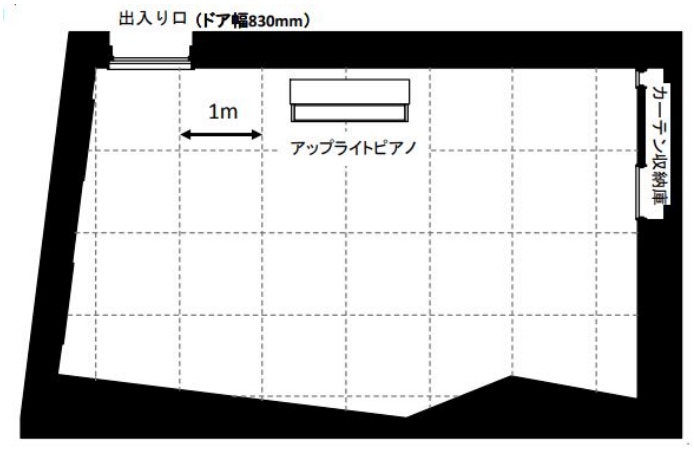
緊急事態宣言下の活動のあり方

ジュニア合唱団が活動していた8月は、東京では緊急事態宣言が発令(7/12～9/30)されており、人流の抑制、不要不急の外出・移動の自粛が要請されていました。

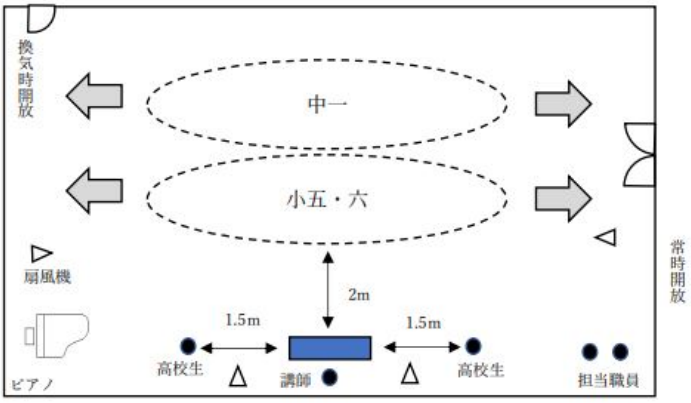
講師の方が8/7都内で行った声楽レッスンでは「講師がマスクを着用していた」とされていますが、レッスン生はマスクを着用していたのか不明です。「受講時間は50分と長くなかった」と判断していますが、50分が短いかどうか難しいところです。

◦ **練習会場の面積と収容人数**

りゅーとぴあのホームページでは、練習会場となった練習室1は、面積38.7㎡、定員は現時点では16人までとされています。ドアは1か所、窓はありません。機械空調はされているはずですが、換気回数などは分かりません。



次の図は、検証報告書記載の8/7に行われた中一と小五・六41名を対象としたレッスン時の配置です。これが事実であれば38.7㎡に41名が入っていたことになります。



4台の扇風機が中央に向かって設置されていますが、換気ではなく冷却のためでした。また、次のレッスンを受けるため練習室1前で待機している際に滞留が見られ、団員同士が振り付けの確認をするなどの状況が発生し、注意を促すも指導を徹底できなかったといいます。

◦ **自主的パート練習のあり方・団員同士の接触**

レッスン以外にパートごとの自主練習がパートリーダーの声掛けにより行われていましたが、会館の担当職員は関与していませんでした。更に団員同士が連れ立って買い物などに出かけることもあったが、これも職員は関知していませんでした。

◦ **抗原検査とPCR検査**

講師が行った抗原検査とは、おそらくイムノクロマト法による簡易検査キットかと思われます、

これについて初版では触れていませんが一方、改訂8版では、留意事項として「無症状者に対しては、PCR検査等と比較して感度が低下する可能性があることから、無症状者への定期的なスクリーニングとして用いることや、濃厚接触者への検査に用いることは推奨されない。有効な場面としては、たとえば、出勤後に発熱や咳、筋肉痛、頭痛、咽頭痛、下痢といった新型コロナウイルス感染症の初期症状を発現させた場合において、職場内で速やかに 有症状者の感染の有無を確認する必要があるときなどが想定される。」と、講師が何度も抗原検査で陽性だから安全だとしていた点の反省を踏まえて注意喚起しています。

検証結果からの考察

◦ **リスク管理の重要性**

最大の問題は、ウイルス保持者の参加を事前に止めることと、万一保持者が参加しても感染を発生させないことを目標にしていたが、実際には機能しませんでした。レッスンを実施する判断根拠が、講師の抗原検査陰性でしたが、デルタ株の感染力や危険性に関する認識が足りなかったとしていますが、実際にデルタ株と特定したわけではありません。しかし、国内でウイルスが従来型からデルタ株に置き換わっている状況からみて、ほぼデルタ型の可能性が高いという見方は間違っていないと思われます。

陽性者が出た場合、リスクを想定して事業停止の判断をするという、リスク管理面のルールが明確化されていなかったことも反省点として上げています。

◦ **マスク着用はどこまで徹底していたか**

マスクの種類は指示しておらず、ウレタンや布を禁止し、不織布マスクに統一すべきであったとしています。初版には「マスクの着用」としか書かれていませんでしたが、改訂8版では「正しいマスクの常時着用」となり、できるだけ不織布マスクの着用を推奨しています。

◦ **コロナ禍において「例年どおり」の演出は厳しい…**

三密回避の視点からも、ダンスやステージ上の動き、大道具や照明付き演出には無理がありました。子どもによっては卒業などで最後のステージになる子もいたことでしょう。何とかして素晴らしい思い出を残してあげたいとの願いから、リスクと背中合わせの行動となってしまったならとても残念です。

本年2/2に開催した『歌劇 幕臣・渋沢平九郎』では、三密を考慮するとオーケストラがピットに入りきれず、ステージ奥に配置した結果、指揮者が歌い手の後ろになって見えず、ステージ前方に複数のモニターを設置して指揮者を映し、それを見ながら歌うという超変則的な演出を余儀なくされました。コロナ禍ではふつうのステージはできないと諦める必要があります。

◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇

過去のクラスター事例でこのように丁寧な検証報告が出されることは少なく、音楽関係者にとってこの報告書はとても価値のあるものです。多くの批判が出ることを覚悟のうえで公表した新潟市には敬意を表したいと思います。今後大いに参考とされるべきです。